

放課後等デイサービス 事業所における自己評価総括表(公表)

○事業所名	あいの風キッズステーション		
○保護者評価実施期間	2026年 1月 26日		2026年 3月 5日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18名	(回答者数) 17名
○従業者評価実施期間	2026年 1月 26日		2026年 2月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10名	(回答者数) 10名
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療的ケア児の受け入れ	法人の強みである、訪問看護や訪問リハビリ、相談支援事業所と連携や、関連機関とのカンファレンスを実施し、医療的ケアがあっても安心して通所できる環境調整を行なっている。10月からは理学療法士による支援を提供する体制が整い、専門的支援実施加算を算定できるようになった。	緊急時ロールプレイなどの医療研修や専門職(リハ)の研修機会を持ち、支援の質向上を図る。
2	訪問学級籍の通所の確保	通学が難しいお子さんでも、ご家族と離れ、社会との関わりやお友達との交流を経験する。将来に向けて、地域とつながる機会を持つことができるよう支援している。	安全配慮を徹底しながら地域のイベントや野外活動など社会参加の機会を拡充していく。
3	療育プログラムの充実	お子さんの興味関心に応じた個別プログラムを企画・実施した。遠足などの野外活動の体験後には、関連図書を活用し、経験を振り返りながら学びを深める支援を行なっている。	お子さんの『やりたい』を大切に。自分で活動を企画して実現することをサポートする。自分がやりたいことを実現する経験を重ねていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	外出の機会が少ない	医療デバイスを使用している特性上、外出が難しい場合もあり、全員で遠くまで外出することが少ない。長期休暇中も児童発達のお子さんの通所があり、放課後等デイサービスのみの活動が難しいことがある。また、訪問籍と通学籍の利用時間の違いにより、野外活動への参加機会に差が生じる課題がある。	職員配置や送迎時間の調整を行う。 参加できなかったお子さんにも体験を共有する工夫を行い、社会参加につながる経験を積めるようにする。
2	地域での同年代の方との関わり	活動の多くが事業所内中心となることから、地域の子どもと関わる機会が限られている。	地域のイベント参加や外出を通して、同年代の方々と関わる機会を作っていく。
3	年齢に合わせた課題への支援 意思決定支援	利用するお子さんの年齢幅が大きいため、それぞれの年齢に合わせた活動を実施しにくい。	活動内容の段階化や活動の共有の工夫をする。選択肢を提示するなど意思決定を支える関わりを大切にする。